

要指示

動物用医薬品

ビクシリンゾル-15%明治

アンピシリン油性懸濁注射液

VICCILLIN SOL-15% MEIJI FOR VETERINARY USE

貯法	室温保存
有効期間	2年（最終有効年月はラベル及び外箱に記載）
規制区分	指定医薬品、要指示医薬品、使用規制該当医薬品

ビクシリンゾル-15%明治は、アンピシリンを有効成分とする油性懸濁の注射液です。アンピシリンはブドウ球菌、レンサ球菌などのグラム陽性菌および大腸菌、プロテウス、ボルデテラなどのグラム陰性菌に強い抗菌作用を示す、広範囲合成ペニシリンです。

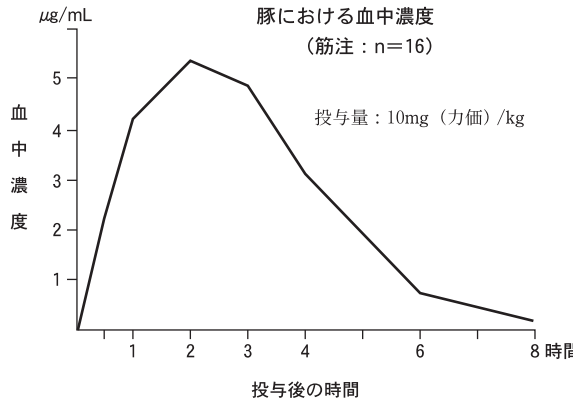
【成分・分量】

本品 1 mL中に下記成分を含有します。

有効成分	アンピシリン	150mg(力価)
------	--------	-----------

【薬理作用】

1. 広範囲の抗菌スペクトラムを有し、各種領域の感染症に治療効果が認められます。
2. グラム陽性・陰性両菌に対し殺菌的に作用します。
3. 投与後胆汁および尿中に高濃度に移行します。



【効能・効果】

有効菌種

本剤感受性の次の菌種：ブドウ球菌、レンサ球菌、コリネバクテリウム、豚丹毒菌、ボルデテラ、大腸菌、サルモネラ、パストツレラ、クレブシエラ、プロテウス

適応症

豚：肺炎、気管支炎、細菌性下痢症、産褥熱、豚丹毒

【用法・用量】

1日1回体重1kg当たりアンピシリンとして下記の量を筋肉内又は皮下に注射する。

豚：3～10mg(力価)

ただし、重症例には上記量を1日2回又は上記量の倍量まで増量する。

豚の体重	1回の標準投与量	
	液量	力価
10kg当たり	0.2～0.67mL	30～100mg

【使用上の注意】

【一般的注意】

- (1)本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- (2)本剤は効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- (3)本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (4)本剤の使用に当たっては、適応症の治療上必要な最小限の期間の投与に止めることとし、週余にわたる連続投与は行わないこと。
- (5)本剤は「使用基準」の定めるところにより使用すること。

【使用者に対する注意】

- (1)誤って人に注射した場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- (2)本剤の成分またはペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある人は使用を避けるか慎重に使用すること。

【豚に対する注意】

1 制限事項

- (1)本剤は豚以外の動物には使用しないこと。
- (2)アンピシリンはペニシリナーゼ産生菌には通常奏効しないので、この場合は他の薬剤を使用すること。
- (3)本剤はβ-ラクタム系の抗生物質であるので、同系薬（ペニシリン等）に対する過敏症の有無を調べ、陽性動物や既往歴のある動物には使用しないこと。

2 副作用

- (1)副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- (2)過敏症反応（ショック、発熱、発疹、蕁麻疹等）があらわれた場合は、ただちに投与を中止し、すぐに獣医師にかかること。
強心剤、気管拡張剤、昇圧剤、抗ヒスタミン剤やコチゾン等の投与及び輸液、人工呼吸等、症状に応じた適切な処置を行うこと。
- (3)本剤はまれに局所反応を生じることがある。大量投与の場合には、数カ所に分注することが望ましい。

3 適用上の注意

- (1)注射針を刺入したとき疼痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合には直ちに針を抜き、部位を変えて注射すること。
- (2)連続して使用する場合には、同一部位を避けること。

【取扱い上の注意】

- (1)用時よく振とうし、均一な懸濁液として使用すること。
- (2)水の混入により製剤の性状が損なわれるので、乾燥した注射器を使用すること。
- (3)開栓後は速やかに使い終えるようにすること。
- (4)使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

【保管上の注意】

小児の手の届かないところに保管すること。

注意—獣医師等の処方せん・指示により使用すること

注意—本剤は薬事法第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、豚について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守して下さい。

豚：食用に供するためにと殺する前28日間

【包 装】

動物用医薬品 ビクシリンゾル-15%明治

1 バイアル中100mL〔15g(力価)〕入

製造販売元
(輸入)



Meiji Seika ファルマ株式会社
東京都中央区京橋 2-4-16

#0411A(PAOMLU)
003265101